

植物と暮らすミャンマー 5 : 花飾り(3)

髪飾りには黄色の花も多い。例えば、マメ科のインドシタン／*Pterocarpus indicus* (Padauk) やセンダン科のジュラン／*Aglaia odorata* (Thanakha-pan)、ショウガ科のキバナグロッパ／*Globba schomburgkii* (Waso-pan)、ラン科のデンドロビウムの仲間／*Dendrobium chrysotoxum* (Thitkwa-ahwa)などを思いつく。甘く香るジュランは、玄関先に地植えや大鉢植えされる低木。一方キバナグロッパは、村では庭や路傍の雑草だが、街では花壇で育てられたりする。水祭りのころにだけ咲くインドシタンも、年中使えるものではない。特に希少なものは、種などで簡単に増やせないデンドロビウムだ。森の木や街路樹に着生するので、偶然に幼株を見つけたとき壊さないよう樹皮ごととはがして持ち帰る。これを自所の樹木に、ココヤシの実の繊維質の中果皮で押さえて紐で固定する。気長に生長を待ち、ついに開花すれば来訪者や近所に自慢して鑑賞する。校舎の引き渡し式で、Pa War と呼ばれる緑のスカーフで正装した女先生が、まとめ髪にこの花を挿していたことが思い出される。

(大野勝弘)



ジュラン(樹蘭)を髪に挿してキンマの葉を売る(Pyapon, 2016.10.2)。



貴重なデンドロビウムの髪飾りで式典に臨む(Mawgyun の村, 2009.3.17)。



雨季半ばを過ぎ咲きだすキバナグロッパ。仏供花にもされる(Yangon, 2016.10.20)。